



利根中央病院だより

第43号

2017年 新年号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
 編集責任者 利根中央病院 事務長
 〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
 TEL：0278-22-4321（代表）
 FAX：0278-22-4393
 URL：<http://www.tonehoken.or.jp/>

地域医療の確保を 目指して



病院長 大塚 隆幸

新春のお慶びを申し上げます。
 新病院移転後1年を無事迎え、1周年記念の病院祭も諸先生、地域の皆様に参加していただき盛大に行うことができました。9月は日本医療機能評価機構の3rdG6認定証を獲得し、12月には地域包括ケア病棟開設と忙しい一年でしたが職員一丸となり成し遂げる事ができました。まだ動き出したばかりで

経営も含めて課題が山積です。平成28年度のスローガン「かかりやすい外来、断らない入院、選ばれる病院」はまだ道半ばではありますが、職員とともに努力しているところです。

平成29年も病院目標・職場目標を明確にして、一歩一歩進みます。皆々様も健康に留意され、共に地域の医療の確保に頑張りましょう。

楽しく仕事が できる環境へ



事務長 片山 忍

皆様、あけましておめでとうございます。
 今年も「かかりやすい外来。断わらない入院。選ばれる病院。」をスローガンに、地域の皆様、行政や医療機関とも連携し“選ばれ、頼りになる”病院づくりを職員一同奮闘していく所存です。
 私事ですが、今年は娘たちが中学校と小学校に入学いたします。新たなスタートに向けて、親の方は不安と心配を抱えていますが、子供たちはワクワクしているようです。医療情勢も厳しい中、日々不安と課題が山積みです。子どもたちのようにワクワク、楽しく仕事ができる環境を多くの仲間と共有し、新たな気持ちでスタートを切ります。
 本年もどうぞよろしく願いいたします。

更なる看護の スキルアップを



看護部長 布施 正子

あけましておめでとうございます。新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を心よりお祝い申し上げます。
 昨年は「認知症ケアの充実」を看護部方針として掲げ、学習会や認知症サポーター養成講座を全看護職員が受講など、地域のネットワークの重要性や連携のためのスキルアップの向上にも努めてまいりました。利根沼田の高齢化率は既に30%を超えています。地域包括ケアシステムの構築が進む中、急性期病院における看護師の役割も変化が求められています。
 「患者様を地域の生活者と捉え支援する看護」をテーマに急性期から在宅を視野に看護活動を進めていきたいと考えております。新しい年を迎えるにあたり、利根中央病院看護部の更なる飛躍を図るべく尽力してまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

災害医療について



副院長 関原 正夫

多数傷病者受け入れ訓練

模擬傷病者数60名・訓練参加人数120名を超える第10回災害訓練が11月19日に行われました。当院の災害対応の特徴は、役割分担が記載されたカード（アクションカード）の整備・災害に特化したトリアージNsおよび事務系職員の育成・情報伝達ツールとしての書類の整備です。

災害覚知後に災害対策本部構成員が全館放送で招集されます。本部構成員にアクションカードが配布され、各部門においての災害対応が開始されます。その後多数傷病者受け入れが決定されると、そのための職員を招集してアクションカードを配布し、各部署の人員配置が完了します。

トリアージセンターでは、看護師や事務系職員が中心となり一次トリアージが行われます。

重症度別に搬入された傷病者に看護師による二次トリアージが実施されていきます。特に重症者部門では、医師と共に必要な応急処置や画像検査が実施され確定診断に至ります。

その結果が災害対策本部に伝達され、入院や転院が決定されることとなります。

アクションカードや情報伝達ツールは有効に機能していましたが、カードの更新と共に、看護師・事務系職員のさらなる育成が必要と考えられました。



上越新幹線・救出救護活動合同訓練

新幹線の実車両を用い、トンネル内での救出救護を想定した訓練が11月10日0時よりJR東日本高



崎支社、渋川広域消防本部を中心とした各消防機関および群馬DMATにより行われ、当院DMATも



訓練に参加しました。トンネルという特殊な環境、新幹線車両という狭い空間での医療の難しさを体験し、訓練の必要性を実感しました。

地域包括ケア病棟紹介

当院の地域包括ケア病棟は、急性期の治療が終わり自宅または施設へ退院される方が、まだ体力に不安が残る、もう少しリハビリを行なってから退院したいなどの患者家族の要望を受けて12月に開設されました。病棟の特色は、生活リハビリです。聞きなれない言葉ですが、高齢者の方が入院されると安静になる時間が長いことから体力、筋力が落ち、歩行、トイレ動作、食事動作、入浴動作までも今まで一人でできていたことができなくなることが多くあります。しかし急性期の治療が終了すると退院しなければならない。これらの状況から不安・不満もありました。地域包括ケア病棟では患者様・ご家族様が入院生活に満足する、退院後の生活に自信を持ち安心して退院できるようになることを目標にお手伝いしています。生活リハビリ以外にも、まだ治療を継続されている方、骨折手術後や脳梗塞後などの機能回復リハビリを必要とされる方も同時に入院され



師長 須田 良子



ています。開設後は、病棟を移ってきた方が入棟時に見せていた不安の表情や自信が持てないなどの言葉、寝たきりになってしまうのではないかと思われていた方が立てるようになった、廊下をすいすいと歩き一人でトイレも入浴もできるようになった、「こんなに動けるようになって本当に良かった」と笑顔で退院されていく方を見ることができ、そのことが

病棟スタッフにとっても励みになります。患者様の笑顔や言葉をいただくことで私たちも充実した毎日を送っています。まだまだ課題は山積み、経験と知識、チームワーク、ときにユーモアのセンスを取り入れて明るく和やかな病棟運営を心がけています。

患者様・ご家族様にとっても、安心して療養を継続できる病棟になることを目指して日々奮闘しています。



1月5日年頭集會が行われました

1月5日年頭集會が行われました。大塚院長から職員に今年の病院の目標や進める取り組み課題について抱負が語られました。昨年1年間の頑張りに対して様々な職場表彰が行われ最後に全員で記念の写真を撮り、新たな年のスタートを切りました。



初めての獅子舞

NPO法人利根沼田地域ボランティアセンター沼田子育てネット主催の獅子舞が1月7日研修室で開催され、親子連れでにぎわいました。初めての獅子舞と南京玉すだれに子どもたちは歓声をあげていました。南京玉すだれは、参加者も実際に体験。記念の写真を撮り合うなど、楽しい交流ができました。



きらめき トピックス

沼田利根医師会症例検討会



11月29日に医師会の先生方、職員68名の参加で4症例発表を行い、質疑応答も活発に行われました。

医療安全川柳



厚労省で開催している11月20日～26日の医療安全週間にちなみ、医療安全管理委員会主催で当院では職員の医療安全意識の向上を目指して医療安全川柳を募集したところ、98題ものたくさんの応募がありました。医療安全川柳コンクールの表彰式を行い、病院長賞・看護部長賞・事務長賞・Good Job (医療安全管理委員会)賞・ICT (感染対策チーム)賞・IDK (いっぱい出してくれたで)賞を6名に授与しました。今回の企画が職員の医療安全当院の医療安全文化の向上に寄与することができたのではないかと思います。